二宮町町民活動推進委員会　第４回委員会議事録

日　時：平成１８年８月３１日（木）１９：００～２１：００
場　所：二宮町役場２階・第１会議室
出席者：山内和夫委員長・高橋武士副委員長・奥慶子委員・向後孝明委員
　　神保智子委員・関野勝治委員・蜂須賀光子委員・原幸男委員
出席者：小野昌範委員・瀬戸宏委員・高山琢磨委員
事務局：安部課長・二見係長・剣持主事
傍聴者：なし

配布資料
・会議次第
・資料１・・・１８年度協働まちづくり補助金制度の改善点と方向性
・資料２・・・町民活動サポートセンターの運営状況

１．開会（安部課長より）

２．委員長あいさつ
・審査からプレゼンテーションまで行ったが、今日はその経験を活かして、来年度に向けていろいろな意見を頂戴し、審議していきたい。

３．議題
◆事務局より確認事項
・今回の議事録署名人は山内委員長と向後委員にお願いする。

（１）１８年度協働まちづくり補助金制度の改善点及び次年度の方向性について・・・(資料１)
◆１８年度協働まちづくり補助金制度について、各委員には事前にアンケートを実施しており、その回答を基に、改善点と今後の方向性を事務局にてまとめたものを資料１として配布している。
〇補助金の募集
※資料１を事務局より説明した。
①募集期間について
(委員長)
・事務局案としては４月中旬から５月下旬となっているが、これが適切なのかどうか。行政は３月議会で予算を決定し、４月の広報で発表される。その後に募集をかけるので、このような期間になっているという事情は見える。ただ、補助金をもらう団体としては、「どうせならもっと早くもらいたい」というところで、いろいろな意見があると思うがどうか。

（委員）
・これで最短ではないか。これ以上早くは無理ではないか。
（委員）
・普通、各団体は５月に役員が決定する。その後補助金を申請するとなると大丈夫なのか。
（事務局）
・前年度の決算が、遅いところで５月末ぐらいではないか。実際はそこのところがギリギリの線ではないか。４月の広報でお知らせし、この段階までに用意をしていただくという形であれば対応していただけるのではないか。
（委員長）
・確かに決算や役員改選という問題はあるだろうが、少し早めに広報として「こういう流れでやります」という情報を提供しておけば、応募したい団体はそれまでに書類を揃え、間に合わないこともないと思うが、やはり難しいのか。
（委員）
・個々の団体の決算や総会が６月に入るということはほとんどない。決算は３月末が多い。決算はわりと早くに集計できる。問題は来年度の計画、予算である。この予算に補助金を見込むのか見込まないのかということだけである。予算は申請しても通らないこともあるし、元々半額しかもらえないので、全額なければできない訳ではない。予算の部分で、「いただけなかった場合にどうしようか」という問題だけが残るのではないか。ただ、４月中旬から５月下旬で「予算も決まらない、決算もできない」という団体は、そもそもがこの対象から外さなければならない。早すぎるということはない。少なくとも補助金を申請しようとする団体は、頑張って急いで総会を開催して欲しい。そういう努力はして欲しい。
（委員）
・町の議会が４月にずれたことはないか。
（事務局）
・それはない。
（委員長）
・年４回の定例議会があり、３月議会が予算審議である。大体、何もなければ３月２５日・２６日で決定し、４月１日から予算執行という形になる。
（委員）
・基本的には議会で承認が取れなければ動きが取れないのか。「こういう予定がある」というのも実際には流せないのではないか。
（委員長）
・予定としてはできるのではないか。ただ、但し書きで「議会で議決されなければこれは無効になります」と入れておけばよい。
（委員）
・最近、本当に議会も分からない。
（委員）
・一番心配なのは広報との関係である。どうしても早目に広報は作らなければならないので、

４月１０日発行だと、議会で何か荒れてしまうと「変更があるかも知れない」と付け加えないといけない。

（委員）

・それは事実として「議会で否決にあった」と発表すればよい。議員に原因があるのだから。

（事務局）

・記事の内容によって、「議決ももらっていないのに広報に載せ、後でおしかりを受ける」ということもあるので注意するが、このような内容は予算の全体の中の一つなので、これだけが否決されるということはない。４月中旬でやるということであれば問題ない。

（委員長）

・それではそういうことで進めていく。

②募集方法について

（委員）

・二宮の情報発信基地はラディアンである。活動団体や一般の人も使うので、ぜひラディアンには大きく出してもらい、有効に使っていただきたい。

（委員）

・それとサポートセンターもである。

（委員長）

・それではそういうことで進めていく。

③補助対象経費について

（委員）

・一つひとつの団体で本当に活動内容や基盤が違う。同じ団体はないので、一般的な共通の科目でくくることは非常に難しい面がある。例えば、ある団体は事務費が非常に多くかかり、ある団体は飲食費が非常にかかるなど、本当に違う。そういう意味で、できるだけ科目を統一しなければならない一方で、「特例を認める」という柔軟性を持たないといけないのではないか。

（委員長）

・この点は、委員会として議論を深めるということで、次回の審議事項とする。

④応募方法（申請書類）について

（委員）

・事業収支予算書の科目欄で、「こういう経費は認める、こういう経費は認めない」という取り決めがあるが、書いている本人がどちらに相当するのかの判断が難しい場合、両方にまたがる中間的な性格の科目があるので、これももう少し違う裁量をお願いしたい。結果と実績を見て、飲食費を認めるとか認めないとか、そういう柔軟性を持っていただきたい。結局、事業収支予算書の科目で、収支かどうかはっきりしないところもある。ここで細かくあらゆるケースを想定して収支予算書の科目を作るのか、それとも今のままでもっと自由な裁量なも

のを設けるのか。補助対象経費と応募方法は同じことだと思う。かなりからんでくるところではないか。

（委員）

・その活動団体がどういう団体なのかというのが見えてこない部分がある。ぜひ活動のＰＲチラシや冊子、趣意書などをできれば添付していただけるとよいのではないか。今回の審査後に、「あの団体は本当に町民活動団体に該当するのか」と言われた。こちらもそういうものがまったくないと、「独立した団体なのか、付属のようにも見える」など、いろいろあるので、ぜひそういった資料を添付していただきたい。

（委員）

・収支予算書の収支差額が大事ではないか。様式は見直ししてもらった方がよいかも知れない。

（委員長）

・これも次回検討するということにして、事務局には、意見を聞いたうえで具体的な様式などが提議できるようなものを用意しておいていただきたい。

⑤募集説明会について

（委員長）

・案としては、説明会はやった方がよいだろうから、異論はないと思うが、説明会の時のやり取りはきちんとマニュアル化しておいた方がよいだろう。

（委員）

・今年、実際に結構質疑があったようなので、それを参考にＱ＆Ａはぜひ作っておいた方がよい。

（委員長）

・これはこれでよいとして、実際に想定問答集ができたら見せていただきたい。

⑥審査選考方法について

（委員）

・活動内容と情報共有が必要である。委員には一度でよいので、行かれる時間に行かれる団体の現場を見に来ていただきたい。

（委員長）

・審査書類が提出されて、委員が行って見るだけの時間的余裕があるのかどうか。あるいは委員全員で行くのか分けるのか。活動が夜や土曜・日曜だけということになれば、こちらでも団体の都合を聞いて行くのか抜き打ち的に行くのか、そういう問題があれば詰めていかなければならない。

（委員）

・まったくのフリーでよいのではないか。ある委員がある団体の行事予定をたまたま入手し、行ける時間に行って見てくる。一斉に行くとなれば難しい。あくまでも監査だとか審査ということではなく、理解のために行くので、一人ひとりがバラバラでいつ行ってもよいのではないか。ただ、現場に行くにあたり、申請団体には予定表を委員会としていただいて、委員

に公表し、行ける時間に一度でよいので見て来ていただきたい。それも全団体に行かれなくてもよいのではないか。

（委員）

・確かに団体の活動内容を把握するには、実際に活動している内容を見た方が一目瞭然で一番よく分かり、それを基に補助金の審査をしていくのは一番よく分かる。プレゼンの機会がなければそういう場面が必要かも知れないが、ただ、これだけたくさんの団体があり、そのために必要な申し込み申請書類や関係書類を提出させ、なおかつプレゼンの中でいろいろな手法を用いて自分たちの主張したい部分を主張させる時間を取っている。行かないよりは確かに行った方がよいが、そこまでをこの委員会の中できちんと決める必要はないのではないか。

（委員）

・委員会として強制するようなところまで行かないにしても、本当に責任を持って判断させる以上はそういう努力はすべきではないか。

（委員）

・１８年度の交付団体には活動報告会を行うことになっているので、そこで見えてくる。見に行くことについてはやぶさかではないが、一方的な判断で突っ走って、それが町民の代表の委員として独走してはまずいのではないか。

（委員長）

・問題は新しく応募してくる団体である。スタート支援は活動実態がないので、「どこで何を見るのか」という問題がある。ステップアップ支援に関しては見ようと思えば見られるが、それが果たして有利に働くのか不利に働くのか。それから、行った人と行かない人で、その団体に対する温度差も当然出てくる。

（委員）

・本当は全員が一斉に行くのが一番よいが、それは無理ではないか。

（委員長）

・今年度はステップアップ支援が１０団体である。それを応募書類の審査後に、日にちを決めて見に行くというのは物理的に難しい。

（委員）

・団体のスケジュールを入手し、一人ひとりが行ける時間に行ける団体にできるだけ見に行けばよい。理想は全員で一緒に行くのが一番よいが、全員×団体数といったらのべ一か月くらいかかってしまう。それは不可能なので、行ける人は行って下さいということである。では「行かない人が現場を知らないから意見が合いにくい」とか「評価できない」といった温度差は当然出てくるかも知れないが、今でも温度差がある。共通認識していない。

（委員）

・現場に行ってみたいと思った団体はあるが、委員として行くと、かえって活動を見られない団体がある。イベントなどは普段の活動が分からない。目に見える団体はあるので、具体的にやっている団体を見に行きたいとは思ったが、それは個人的な想いで、委員として見て、対象の中の温度差が、思い入れが違ってくるのを自分で分けられるかというのと、やはり時間的にも無理がある。公平を考えると行った方がよいのか行かない方がよいのか。情報がた

くさん欲しいとは思うが、委員として行くのかはどうか。全部見られればよいが。

（委員長）

・これも宿題として、持ち帰って、各委員には回答を用意しておいていただきたい。

⑦審査基準について

（委員長）

・大体の意見は「今年度のやり方でよかった」ということである。ただ、一点は団体に属している委員をどういう扱いにするかということである。

（委員）

・本来であれば純粋に、むしろ知らない人たちが審議した方が公平かも知れないが、「全然ボランティア活動をやっていない、過去にもやっていない、将来もやる気がない、町民活動もやる気もない」人たちが理論的に判断するというのは怖い気がする。現在活動している人たちが加わっても当然よいのではないか。ただ、今回やったように、自分の団体は評価しないというセキュリティを用意したのだから、それでよいのではなないか。

（委員長）

・審査のやり方は今年度を踏襲していくことにする。

・事務局案の中で、２４点未満が出た場合には、満額を認めないで、減額措置を取るべきだという意見があるが。

（委員）

・「申請額と数千円しか違わない。全部出してくれれば気持ちいいのに、どうしてこんな端数になったのか」と言ってきた団体がある。決定方式は公示すべきである。そうでないと「この数千円は何だ」ということになる。どちらにしろ、こちらが評価しても申請金額より余計は出せない。今のやり方では基本的にはカットするしかない。ただ、自分としては減点主義は取らないで欲しい。できるだけ受け付けて一年間頑張ってもらおうということを皆さんにお願いした。それにも関わらずカットが現実に起きているのだから、その計算方法を聞かれた訳である。逆に満額出した団体からはお礼を言われてしまった。たかだかその辺の差で喜んでもらったり文句言われてしまったりではこちらもつらい。ならば逆に全部減額するか満額出してやるか。しかし、計算方式は事前にはっきりさせておいた方がよい。

（委員）

・審査基準があるのだから、減額するところも減額されないところもあって当然で、それが分かるように公表することが大事ではないか。

・結果を掲示したが、基準点に達していない団体があったかというのも、みんな一目で分からなかった。私たちは聞いているので見ても分かるが、よく見ないとそれも分からなくて、分かりにくかったというのがある。

・「交付対象でない」と判断した委員がいても満額出してしまうのはどうか。その辺はもっと議論を深めたい。

（委員）

・２４点以下で「認めない」と審査員としてきちんと評価をした訳である。基準がある訳なの

で、それは尊重していく制度を採っていかないと、何のために点数を付けているのか分からなくなる。暴論かも知れないが、２４点以下ということは交付対象に値しないということで、交付金額は０円として計算に入れてもよいのではないか。点数を付けられた団体には申し訳ないが、そうしないと審査員の付けた基準が軽くなってしまうのではないか。点数と金額は相関性を持たせていかないと、「何のために点数を付けているのか」という気がしてしまう。厳しいとは思うが、そう思われたら「逆に頑張ろう」というレベルアップにつながっていくのではないか。私は２４点以下は付けなかったが、付けた委員には、自分の付けた点数が金額に全く反映されなかったことについてどう思っているか逆に知りたい。

（委員）

・０点を付けられた団体があったが、認められた中での金額を出していた。その時に、「どうなのか」という想いはあった。２４点以下を付けた委員と意見を交換する時間があればよかった。後から思うと「あれは交付団体ではないのではないか」という団体が実はあった。

（委員）

・先ほど、「申請団体から後で照会があった」という話が出た。私はないが、他の委員にもあるのか。

（委員長）

・団体と交流を持っている委員にはあるだろう。私のように部外者にはない。

・委員が審査した後に、「私はこう思う。変えて下さい」「では私も変えましょう」と言ってもそれはおかしな話である。そうかと言って点数を出す前に「こういう問題がある」などいろいろな意見を出すようなことをやったら談合である。何のために一人ひとりが審査員として良心にのっとって点数を付けたかというのに反する。そういうことをやると、大体、声の大きい人、弁がたつ人に移っていく。やはり個々の委員が判断してやるしかない。甘い辛いはあるかも知れないがそれでやるしかないのではないか。ただ、点数を反映させるのならば、例えば「一人が２４点以下を出したら１割減」など、特にステップアップ支援ではそういう減額の算定方式はあってもよいのかも知れない。スタート支援で門前払いすると、せっかくやろうと思っているのをくじくことはあまりよくないのではないか。そういう時は交渉の中で「こういうことできちんとやって下さい」と付け加える。「一発レッドカードというのはどうか」という判断で、審査時に委員長見解として「どうせならステップアップ支援は全額出したい」という意見を申し上げて皆さんに了承していただいた。

・来年まで時間があるので検討課題としていった方がよい。

⑧その他（全般的に）

（委員）

・ほとんどが今まで出た話である。

（委員長）

・事務局でたたき台を提案していただいて、それを基に議論を深めていきたい。

（委員）

・いろいろな方に言われたが、「できればスタート支援については、自己負担分を軽くしてもら

いたい」という意見が多い。初めてで分からないという部分と、どう動くかが自分たちでも不安な中で、グループによっては最初の設備投資に必要なので、自分の負担が大きくなると応募できないというところがある。

（委員長）

・町民活動自体は、ある程度身銭を切らなければならないのではないか。ただ、それでは大変なので、ある一定額を補助しようということである。やはり、何か自分たちで工夫して工面していくという努力がある程度根底にないと、本当の活動とは言えないのではないか。これは暴論だろうか。

（委員）

・私はいらないと思っている。

（事務局）

・これまで町が優遇してきた補助団体がたくさんある。今回この制度を作って、そういう団体をこの協働まちづくり補助金の方に移行させていきたい。「活発に、自主的に自分たちの身銭を切ってまで活動している団体がたくさんある」と、少し大変だが、ここの方々には見本になっていただきたいという気持ちが非常にあるので、そういう意味では委員長の言われたことはそのとおりである。

（委員）

・審査もプレゼンテーションも申請も全く出さないで補助金をずっともらってしまっている団体もある中で、新たに起こしていこうという団体が、補助率だけでなく、全体の中でもどうなのか検討していただきたい。

（事務局）

・ここ数年、既存の補助団体については非常に厳しくして出て行く内容の精査をしている。全部とはなかなかいかないが、ゆくゆくはこちらの方に移行して欲しいということで進めさせていただいている。

（委員長）

・町側からそういう姿勢を積極的に町民の方に訴え続けていっていただきたい。

・一応、次年度の流れはこのスケジュール表の形で進めていく。

〇公開プレゼンテーションについて

※資料１を事務局より説明した。

①開始時間について

（委員）

・開始時間は今年度と同じでよいが、発表時間は決めずに、終了時間をもっと遅くしてはどうか。

（委員）

・今年度の申請は１５団体で、委員は９時半に集合して進行手順等を確認し、プレゼンテーションは１１時に開始している。１回やったので様子は少し分かっている。

（委員）

・これから具体的に検討していくので、そんなに時間の前倒しは必要ないのではないか。
（委員）
・手を挙げる団体は、今年度と同じくらいではないか。
（委員）
・個々の団体に開始時間を伝えてあるが、それは変更しないでいただきたい。今回は、みんな緊張して時間が早まってしまい、発表者の一部が間に合わなかった団体もあった。
（委員長）
・開始時間はこれでよろしいか。ただ、各団体に時間を通知するならば、それにそって開始するということにする。

②団体活動の概要（模造紙での活動概要）について
（委員）
・統一することはできない。
（委員）
・にぎやかでよかった。何もないのはさびしい。
（委員長）
・各団体におまかせすることにする。

③発表時間について
（委員）
・短いという意見が圧倒的に多いので、申し込み団体が少なければ１分くらい延ばすなどしてもよいのではないか。逆に多かった場合は短くも長くもできないのではないか。
（委員長）
・５分が妥当なのかどうか。「長くしたからうまく喋れる」ということでもないと思うが。
（委員）
・時間を長くしても、オーバーする人はするのではないか。
（委員）
・去年は５分で今年は４分というようなことになると、やはりやりにくい。発表時間は固定して、質問時間を多少延ばす方がよいのではないか。
（委員長）
・今年度と同じ５分を発表時間としてやっていく。

④質疑応答時間について
（委員長）
・今年度は３分であるが、団体によっては質問したい委員がたくさんいたし、質問しなくてもよいという場合は時間が余り、どこかでそれをフォローするということがあった。３分と決めてしまうと、「もういい」という場合も場を持たせなければいけない。もう質問がなければ終了でいいのかどうか。そうすると、「質問がなかったので悪い結果」と思わせてしまうのか。

（委員）
・質問しても回答が帰ってくる時間が長い。
（委員）
・急に聞かれるので、何を言われているのか分からなくなって、答えてもらえないということもかなりあった。
（委員）
・質問する側も長々としゃべってしまい、時間を取ってしまったかも知れないと反省している。
（委員長）
・最低でも一つは質問しないと失礼である。
・「１分から３分」や「２分から５分」というようにし、質疑応答には幅を持たせるようにする。

⑤発表方法について
（委員長）
・これは団体におまかせするしかないのではないか。
（委員）
・今回プレゼンを行うにあたり、団体から何か質問はなかったか。
（事務局）
・質問というよりは、「パワーポイントを使用したい」といった発表の方法についての打ち合わせだけである。
（委員長）
・それではそういうことで進めていく。

⑥会場配置について
（委員）
・審査発表をする時に委員が横に並んだが、あの形を最初から最後までやった方がよいのではないか。発表者の顔は見えるが、団体の会員の顔が見えない。両方の顔を見たい。後ろから眺められているのも落ち着かない。
（委員）
・発表時にもっと会場から近ければよかった。各団体がせっかく持ってきた模造紙等の資料が委員でさえ見づらかった。
（委員長）
・会場設営は事務局にまかせる。部屋やテーブル、イスの大きさなど、いろいろ置いてみて、「これでしかやれない」というのであればそれをのむしかないのではないか。

⑦審査発表について
（委員長）
・もし模造紙を使って行うのであれば後ろにも貼るなどしてもよいのではないか。
・事務局には「模造紙でやるならこう、パワーポイントでやるならこう、印刷して回す」など

いくつか案を出していただきたい。

（委員）

・公表はホームページにしか出ていないのか。

（事務局）

・ちょっと遅らせているが、広報にのみや９月号に掲載している。

（委員）

・ホームページに出ていることを知らないで聞いてくる人がいる。今後は「広報にも掲載する」ということで説明する。

⑧その他（全般的に）について

（委員長）

・「スタート支援とステップアップ支援のプレゼンテーションは２日に分けたらどうか」と意見を出した。性質の違うものを１日で処理していかなくてはいけないというのはきつかった。２日に分ければ時間の余裕も出てくるし、多少時間が延びても処理できる。ただ、１日で済むことを２日出てくるのは物理的に大変だという意見もある。

（委員）

・プレゼンテーション開始前の打ち合わせなどをできるだけ委員会の方で済まして、団体の発表に時間を割いて、丸一日フルに使えばまとまるのではないか。ただ、今回のような時間の配分では短いと感じる。

（委員長）

・昼の休憩をステップアップ支援の審査に使ったので終わったが、かなり急いでいた。

（事務局）

・１５団体ぐらい出てしまうと１日では両方はきついかも知れない。

（委員）

・せっかく資料を配ってもらっても読む暇がない。

（委員長）

・打ち合わせはスタート支援の前にやり、翌日は確認事項はせずいきなりステップアップ支援の審査に入ればよいのではないか。

（委員）

・いずれにしても１９年度の申請件数次第ではないか。

（委員）

・スタート支援とステップアップ支援を一緒に行えば、スタート支援の団体が「ステップアップ支援の団体がどんなことをしているのか」を見ていける利点もある。

（委員）

・「土日がかきいれ時」という人もいるので、タイトだが１日の方がよいかも知れない。

（委員長）

・例えば１６団体以上なら２日にするとか。今回は１５団体できつかったが、１回やれば慣れるのでわりと早くなるのかという気はする。

・応募団体が決定した時点で、２日とるか１日で済ますのか議論したい。１５団体を目安とする。
・次に「補助金額の割合や該当する団体数なども委員会の中で議論していただきたい」とあるがこれはどういう趣旨か。

（事務局）

・１次審査の段階で公開プレゼンテーションに臨む全体の枠を決める時に、どういう団体数でいけばよいのかということである。基金として３００万円あり、例えばその内スタート支援は５０万円、残りの２５０万円をステップアップ支援に配分する。平塚市ではスタート支援の残金をステップアップ支援に持っていっている。そういうものも１次審査の中で、公開プレゼンテーションに臨める団体を絞り込むこともできるのではないか。それに応じて日程の議論もできるのではないか。今年度は「申請団体は全て」という話であったが、１次審査の段階でふるい落とすような議論も必要ではないか。

（委員長）

・逆に言えば、ふるい落とすとプレゼンテーションの時には落とせないのではないか。

（委員）

・そういうことをすると毎年基準が変わってしまう。今後、委員会で明確な基準を規定し、確実に毎年「基準に満たない団体は落とす。基準を満たした団体には交付する」。法則性を持った基準を徹底的に議論して、それでふるい落とさないと、「今年は数が少ないから満額出す」「今年は申請団体が多いからカットしなければならない」ではよくない。前回確認したが３００万円という枠は決まっているが、全部絶対に使わなければならないということではない。余ったお金は繰り越すという話であった。その繰越した分を多かったら配布すればよい。毎年状況は違う。

（委員長）

・今年度の場合はスタート支援が５０万円、ステップアップ支援２５０万円という形で収まったので全部プレゼンまでして審査しようということであったが、スタート支援が７団体応募して来れば２団体は書類審査の段階で精査して落として、後は金額だけで差をつけるというやり方にするのか。とりあえずプレゼンは聞いて、落とすのかということである。

（委員）

・いずれにしてもたくさん応募団体があれば、数の問題で落とさざるをえない。今年度のようにたまたま申請金額が３００万円に満たない。団体数も多くない。だからほとんどに交付できたという結果になっている。毎年何団体が応募するかは分からない。申請金額自体も分からない。あくまでも予算の中で決めるしかない。それで我々が評価する団体の上位から出していく。下位の方になった団体には申し訳ないが。

（委員長）

・ある程度の１次審査の絞込みはするが、補助金額を超えている団体数はあってもいい。プレゼンテーションで順位決めをしていき、額を決め、場合によっては下位の団体は落とすというやり方なのか。

（委員）

・それは仕方がない。

（委員長）

・申請が来た時点で議論することにする。そういう考え方があるということで頭に入れていただいて、応募団体がどれくらいの時はどういう順位付けをして削っていくか。

（委員）

・来年の５月に決算報告書を出してもらい審査するが、その中に認められない費用が発生した場合、それは返してもらい、繰り越すことになっている。なおかつ新たな予算がつく。今の流れでは予算そのものは減らない。そういう点ではカットされた分は残る訳なので、それは新たな団体に交付することもできるし、その辺も５月の決算報告を聞かないとならないのではないか。

（委員長）

・そういうケースが発生した時に考えればよい。

（委員）

・決算報告の発表会は５月のいつ頃やるのか。

（事務局）

・まだ日程調整はしていないが、当然プレゼンテーション前には行う。

（委員）

・団体の方も、「申請も結果報告も」となると大変である。

（委員長）

・ひととおり補助金の募集と公開プレゼンテーションについて説明をしていただき、ご意見を聴取し、このままでよいという案件もあり、慎重に検討していこうということも出てきた。次回以降はそういった検討事項について、いろいろな意見を出しながら次の募集の時までにある一定の基準や考え方を決めていきたいのでよろしくお願いしたい。

（２）町民活動サポートセンターの運営について

※資料２を事務局より説明した。

（委員）

・まだ町民活動の情報拠点になっていない。サポートセンターは狭い。歩いてすぐのところにＩＴふれあい館があるので、相互利用できるようにお願いしたい。

・サポートセンターは目立たなくて場所が分かりづらい。町内に住んでいても場所が分からない人がいる。

（委員長）

・いくつか意見が出ているので、施設が利用できるように改良していただきたい。

・できればどこかの団体に運営させるのがよい。

（３）その他

◆次回会議の日程について

・次回会議は１１月２２日（水）に開催予定。

４．閉　会（山内委員長より）

◆２１：００に閉会した。

議事録署名人＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

議事録署名人＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿